

令和4年7月号

ゆう's ねっと

ENA

つくり すこしずつ行こまいか

発行／恵那市青少年育成市民会議 第41号

第18回 恵那市少年の主張大会

6月11日(土曜日)、恵那文化センターで、第18回恵那市少年の主張大会を開催しました。市内8中学校の代表生徒が熱い思いを発表する様子は、YouTube 恵那市公式チャンネルで生配信されました。審査の結果、恵那東中学校の林利々樺さんが最優秀賞に選ばれました。最優秀作品全文と、優秀・奨励賞作品の要約を紹介します。



みなさんは、「誰もが暮らしやすい社会」とは、どんな社会だと考えますか。差別的ない社会、生活のしやすい社会、多くの人がこのような考えをもっていると思います。私がそう聞かれたら、子どもから高齢者までの全ての人が過ごしやすい社会だと答えます。では、そんな社会を実現するためには、どうしたらいいのでしょうか。

私の父は、目が見えません。普段は、白杖と呼ばれる白色の杖をもって生活しています。そんな父を迎えに駅まで行った時の話です。いつも通り白杖を使い、点字ブロックをなぞり歩いていました。そんな時、「どんっ」と音を立て、人におつかったのです。ぶつかったしてしまったのは、相手の人が点字ブロックをまたぐようにして立っていたことが原因でした。もし、ぶつかった時に道路のほうに飛び出してしまうたら、大きな事故になっていたかもしれません。他にも、街中で立っている人の目線、しゃべっている人たちの目線のほとんどは、歩いている父に向いていると感じることが多いです。

私自身もおなじような経験をしたことがあります。私は紫外線アレルギーというものをもっています。一年の多くの日を日傘や長袖などで過ごしています。そんな私を見て、多くの人は「何で夏なのに長袖なの?」と言ったり、すれ違う度にじっと見たりします。そんな日々が続くことで、人と違っていてそんなに变なことかなと考えることが多くなりました。

そんなことを考え続ける日々の中、私は去年、東京で行われた東京パラリンピックを見ていました。私は数ある種目の中でも、車いすテニスというものに目が釘付けになりました。試合での躍動感のある車いすの動き。鳴り響くボールの音。選手の試合の緊張感や集中力、私は息をするのを忘れるぐらいに見入っていました。あつという間に試合が終わり、私はその時に見た選手のスポーツに対する強い思い、メダルを絶対に取りたいという思いを感じました。そんな選手達は常に前向きで弱音は一つも出ませんでした。選手のみなさんは、生き生きとしていて、キラキラ輝いているように見えました。

私は、この選手のように、自分のやりたいことを思いっきりできるようにしたい、そう思いました。



最優秀賞
みんなで暮らす社会

最優秀賞

恵那東中学校 3年 林利々樺

それまでの私は、周りを気にしていたところがありました。きつと、父や私のような人の目線に違和感を感じたことのある人は、どこかで思い切つてやることでできなかったのかもしれない。閉塞感がなく暮らしやすい社会の実現のためには、まずは正しく理解してもらうことが大切だと考えます。知らないこととわからないことはたくさんあります。私のようなアレルギーは、理解が無いとかなかなかわからないところが多いです。

もう一つ、「誰もが暮らしやすい社会」にするためには、必要なことがあります。それは、物理的に増やすということです。

私は、少し前に弱視と呼ばれる目が見えにくい方が、間違つて踏切内に入ってしまった、亡くなつてしまったという記事を見ました。そのことが起こった場所では、視覚に障がいがある方へ危険を知らせるものはありませんでした。その記事を読んだ私は、警告ブロックなどがあれば踏切内に入ることはなく防ぐことができたのだと思いました。今は電車のホームにドアが設置されたり、お店などの出入り口にスロープが設置されたり、ユニバーサルデザインと呼ばれる施設が増えていきます。社会全体が、ユニバーサルデザインを当たり前に増やす流れになると、本当に困っている人がいるところで救われます。

日本には、世界には、いろんな人がいます。耳が不自由な方、体が不自由な方、また外見からはわかりづらい体の内部に障がいをもっている方、誰もが同じこの世界に生きる一人一人です。

みなさんは、歩く際や信号待ちの時に自分が立ったり、物を置いたりして、点字ブロックを塞いでいませんか。みなさんにとっては普段の何気ない行動の一つかも知れませんが、しかし、そこしか使えない、そこでしか歩けない方がいます。

「誰もが暮らしやすい社会」にするには、まず、相手の立場になって考えることが大事なのではないでしょうか。そうすることで、自分のすべきことが見えてくるはずです。

私は、それ考えただけにとどめず、行動にして、お互いを支え合う、そして周りの目を気にせず過ごせるそんな社会の実現を願っています。

優秀賞 (3名)

※発表順

自分の行動で
その人の未来が変わる
 恵那北中学校
3年生 鈴木 友梨

コロナがゼロになる日がいづつのか、それは誰にも分からない。一人一人がコロナ差別について考えてほしい。悪口は今すぐやめて。コロナ差別を受けた人の経験談を読むだけでも理解につながる。恐れるべきは人ではなくウイルス。「STOP! コロナ差別」自分の行動でその人の未来が変わると信じて。



今、私が見ている世界

 恵那東中学校
3年生 川口 玖民

海外でのホームステイで人の温かさ、世界の広さを知った。現在、私のスマホには戦争など悲しいニュースが流れてくる。世界にはとても多くの「違い」がある。プラスに考える人もマイナスに考える人もいる。争いや差別、偏見が生まれることも。お互いに違いを認め合い、受け入れ、知ることが一番大切では。



言葉の力で広がる世界

 明智中学校
3年生 佐々木 恵麗菜

言葉には色々な種類があり、表現の幅を広げている。自分も読書や国語の授業を通じ、自分の頭の中の辞書に新しいページが増えていき、言いたいことを相手に伝えられる楽しさ、自信を得た。若い世代が言葉を書いたり読んだりする機会を大切に、「言葉って凄い!」と思ってもらいたい。

奨励賞 (6名)

※発表順



お母さんの温かさ

 上矢作中学校
3年生 長谷川 ゆい

お母さんやお父さんがいることが当たり前だと思っている人、悪口を言ってしまう人へ。当たり前のようにいてくれる家族の大切さをもう一度考えてみて。この世にたった一人しかない親の大切さを。私たちを、愛情を持って育ててくれていることを。「お母さん、私もお母さんのような温かい人になります」



捨てるのではなく、生かすタイミングを

 山岡中学校
3年生 伊藤 将真

日本の食料廃棄量は非常に多い。私たちが食わずに捨ててしまっている食べ物、ごみになる前に飢餓で苦しむ国に持っていけば、世界中の人々が助かるのではないか。どうしたら食べ物を生かせるか、そのタイミングを考えていくことが大切だ。身の回りの小さなことが世界につながっていく。



私が引き継ぐふるさとの誇り

 岩田中学校
3年生 小林 奈央

岩村の先人・佐藤一斎先生の生誕250周年にあたり、囀鳴フォーラムで扱った商品開発という大事な仕事を任された。一斎先生を広く知ってもらいたいという気持ちで、試行錯誤しながらボールペンを試作中。責任は重いが、嬉しさが大きい。将来も、色々なところで故郷に貢献できる人になりたい。



自由のための選択

 恵那西中学校
3年生 大田 吏将

コロナ禍により、世界に目を向けることが増えた。オンライン授業のメリットを得た。顔が見えない相手を思いやることがより大切になった。マイナスをプラスにとらえ、小さな選択で大きく成長できる人間になりたい。制約下でどれだけの自由を手に入れられるのか、日々考えることに意味がある。



私が望む世界

 串原中学校
2年生 小曽根 ひなた

色々な性格を持った人がいるから面白い。他と異なることはいけないことではない。色々な人の存在を発信し、偏見の目を持たず、多様な視線から考えるようにしたい。みんなの個性が生かせる場をつくり、その活動も発信していきたい。百人いれば意見も百通り。その異なりを認め合える世界になってほしい。



自国の理解を深めよう

 恵那西中学校
3年生 大山陽菜乃

私は日本が好き。歴史や文化、芸術、日本人の礼儀や感性など、誇らしいものがたくさんある。日本人自身が、日本のことをもっと知ってほしい。春に成人年齢が引き下げられたが、自国を知ることにより、政治への積極的な関わりや、投票率の増加につながるのではないか。自分も日本の良さを学び伝えていきたい。

寄せられた感想

●さまでまなことがコロナで制限された中、新しい生活様式での学校生活、Zoomでの授業など、大変だったと思います。ウィズコロナでの話は、とても興味津々でした。特に、コロナ禍での成長を自分の言葉で表現していた方、コロナ差別の問題をお話した方、マスクができない人がいることを伝えてくれた方、自分自身、考える事ができた時間でした。
(中野万町・40代)

●手話通訳があり、多くの方に開かれた大会というイメージでもとても良かったです。(大井町・60代)

●中学生の多感な時期に、いろんな人の考えに触れ、体験し、変化していくことの大切さを痛感します。今後もこの活動が継続され、得る物の多いチャンスになることを願います。
(上矢作町・50代)

●中体連の練習、研修旅行、受験勉強など多忙な中、主張の発表準備をするのは本当に大変だったはず。10人の発表者に拍手を送りたい。
(長島町・30代)

●今回の主張を聞いて、自分ができるSDGsを取り組んでいきたいと思った。(串原・40代)

ピカチュウ

っと光る



学生を見つけたよ!



恵那
西中

岩村駅からの14kmウォーキングで、街を「美化中」



恵那西中学校では、岩村町から恵那西中学校までの14kmの道のりを歩く「Weston Walking with Aketetsu III」を、4月28日(木曜日)に開催しました。1年生から3年生まで、各クラスが一同となりゴールを目指し歩きました。

「ウォーキングの道中で、ごみを拾っていきたい」「道をきれいにすることで、お世話になっている地域に貢献したい」と3年生からの提案があり、一部の生徒が実施。大きなごみ袋が4つも満杯になる程のごみを拾うことができました。生徒からは「ごみがたくさんあって驚いた」という声や、「そもそもごみを出さないように工夫するところから始めなければ」という感想が聞かれました。

道中では地域の方々が交通安全のため見守ってくださり、またゴールでは、PTAの方々が飲み物やおやつを用意して迎えてくださいました。

明智
中

明智中生のパワーで、3年ぶりのお祭り大盛況



明智町で5月3日(火曜日)、第33回ちよっとおんさい祭り・第49回光秀まつりが開催され、明智町内が久しぶりににぎわいを見せました。新型コロナウイルス感染症が拡大して以来、同祭りは中止や規模縮小が続いており、盛大に開催されるのは3年ぶり。この日は気持ちの良い青空が広がったこともあり、会場となった大正村広場や南北街道沿いには、祭りを楽しみにしていた人が大勢訪れました。

この日は、明智中学校の生徒が大勢ボランティアで参加しました。大正村広場特設ステージでの「光秀音頭」「大正村音頭」では、活気ある踊りを披露。また、祭りのあちこちで行われたイベントの受付や案内などで、運営を支援しました。



町民会議の活動

長島町



中野児童センターでは、3月下旬に「ボッチャ」体験をしました。「ボッチャ」とは、ヨーロッパで生まれたスポーツです。重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢機能障がい者のために考案されたもので、パラリンピックの正式種目にもなっています。

ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競う内容です。

センター2階の卓球室にハーフコートをビニールテープで作し、いつでも遊べるようにしてあります。子どもが数人集まると、学年に関係なく「ボッチャやろう」と声をかけ合いながら楽しんでいます。初めての子がいたら、知っている子が教えてあげているので、ボッチャの体験者はどんどん増えています。秋ごろには大会を計画したいと思っています。

笠置町

5月21日、「なんじゃもんじゃウォーキング」を行いました。恵那北小学校の全校児童と保護者、合わせて120名が参加しました。高学年は姫栗ふれあい広場から約3km、低学年は記帳小屋から約500mを歩きました。

記念になんじゃもんじゃの木を植樹した後、「エイエイオー！」と元気よく掛け声をかけて登山開始。マイナスイオンを体いっぱい浴びて、わいわいがやがや、にぎやかに歩きました。



ひとつばたごは上の方しか咲いていなかったのでもう少しよかったけど、咲いているのを見られてよかった。

歩く距離が長くて大変だったけど、途中の景色がきれいだったし、終わった時の達成感が気持ちよかった。

大人になったら、ぼくたちが植えたなんじゃもんじゃを、みんなで見ていきたい。



串原

5月22日(日曜日)、串原青少年育成実行委員会と子ども教室が一緒になり、さつま芋の苗植えと、もち米の田植えを行いました。参加者は、串原小中学校の児童生徒24名、教員を含む大人27名、幼児4名の合計55名。昨年度まではコロナ禍で活動に制限があったため、子どもたちは久しぶりに土や泥に触って楽しむことができました。田植えでは裸足で田に入り、「気持ちいい」などと声をあげながら、足の裏や足指の間を泥が滑りぬけていく感覚を味わい楽しんでいる様子でした。

